

＼なっとく!!／

省エネ住宅を 選ぶべき 6つの理由

より健康に暮らす



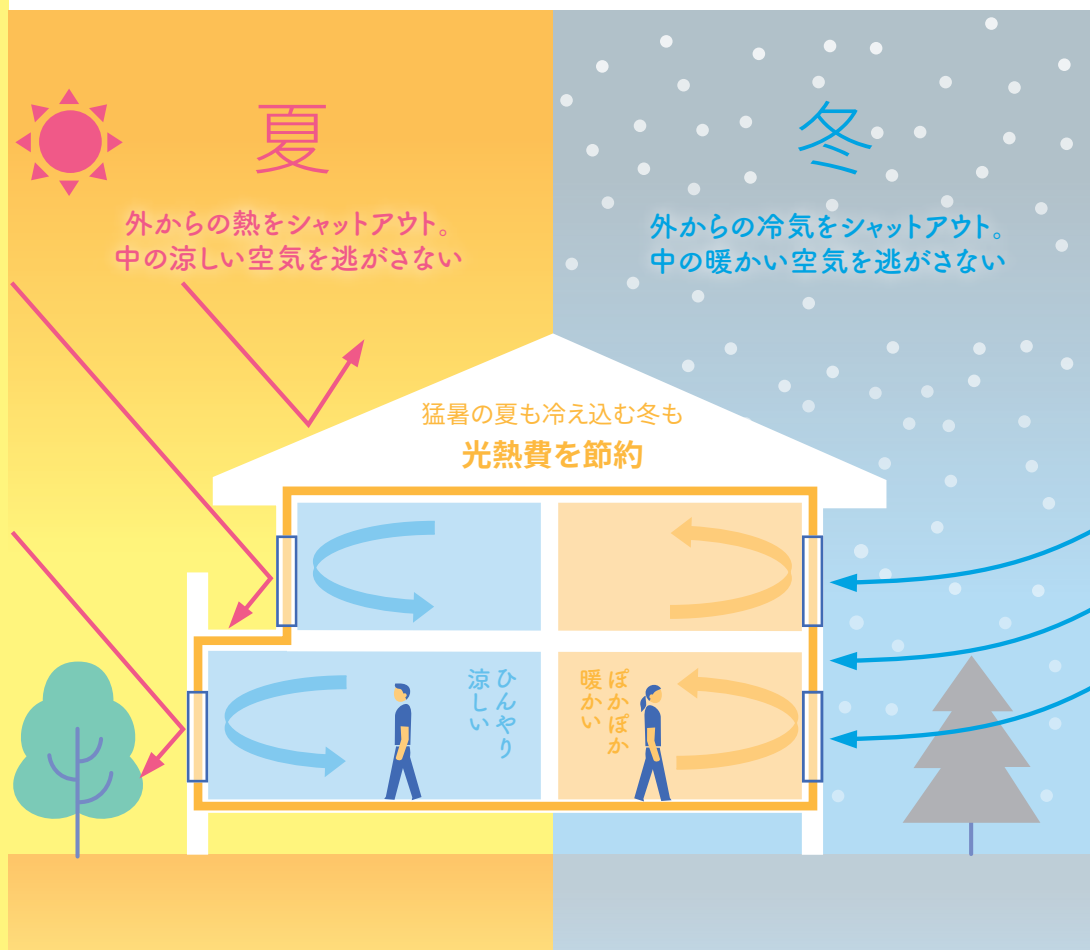
毎日が快適に



結果、ローコスト



一年中こちよく住まう—— 省エネ住宅は、快適住宅。



つまり高气密・高断熱で、快適に過ごせる家。

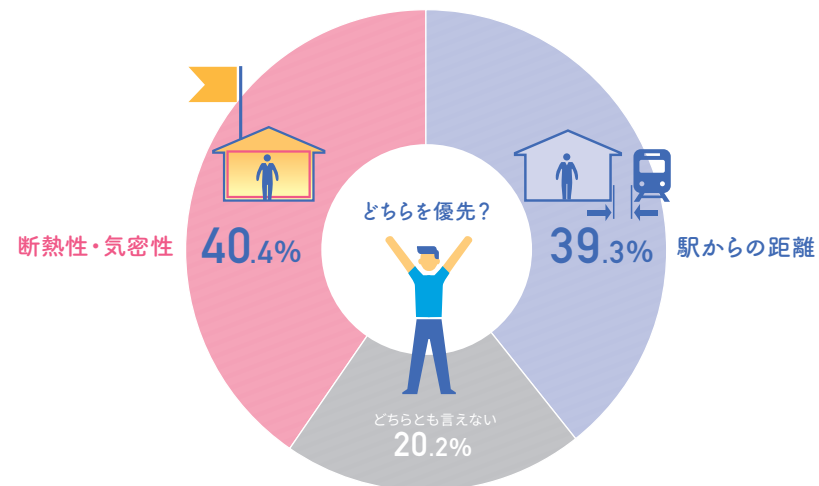
冬、暖房しても足もとや窓際が寒い。夏、冷房を付けても室温がなかなか下がらない。家の中でも場所によって寒暖の差が激しい——こんなこと感じていませんか。住宅の気密性と断熱性を上げると、これらの不満は解消されます。すき間を減らし、窓や壁からの温度の出入りをシャットアウト。光熱費削減のほか、健康な暮らしに結び付くメリットもあります。高气密・高断熱の省エネ住宅は、これからのキーワードです。

家選び、あなたは何を重視しますか？

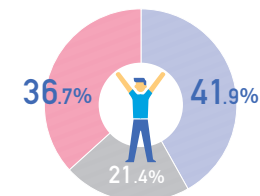
Infographics

「新築住宅で何を優先するかの比較」

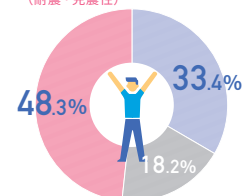
価格と広さが同じ場合、「駅からの距離」とそれぞれの条件を比べました。



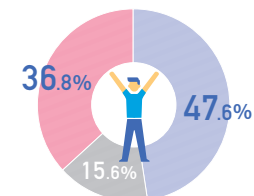
遮音性の高さ vs 駅からの距離



耐震性能 vs 駅からの距離 (耐震・免震性)



設備仕様 vs 駅からの距離



省エネ住宅は、「駅近」に対抗できるメリットを持っています

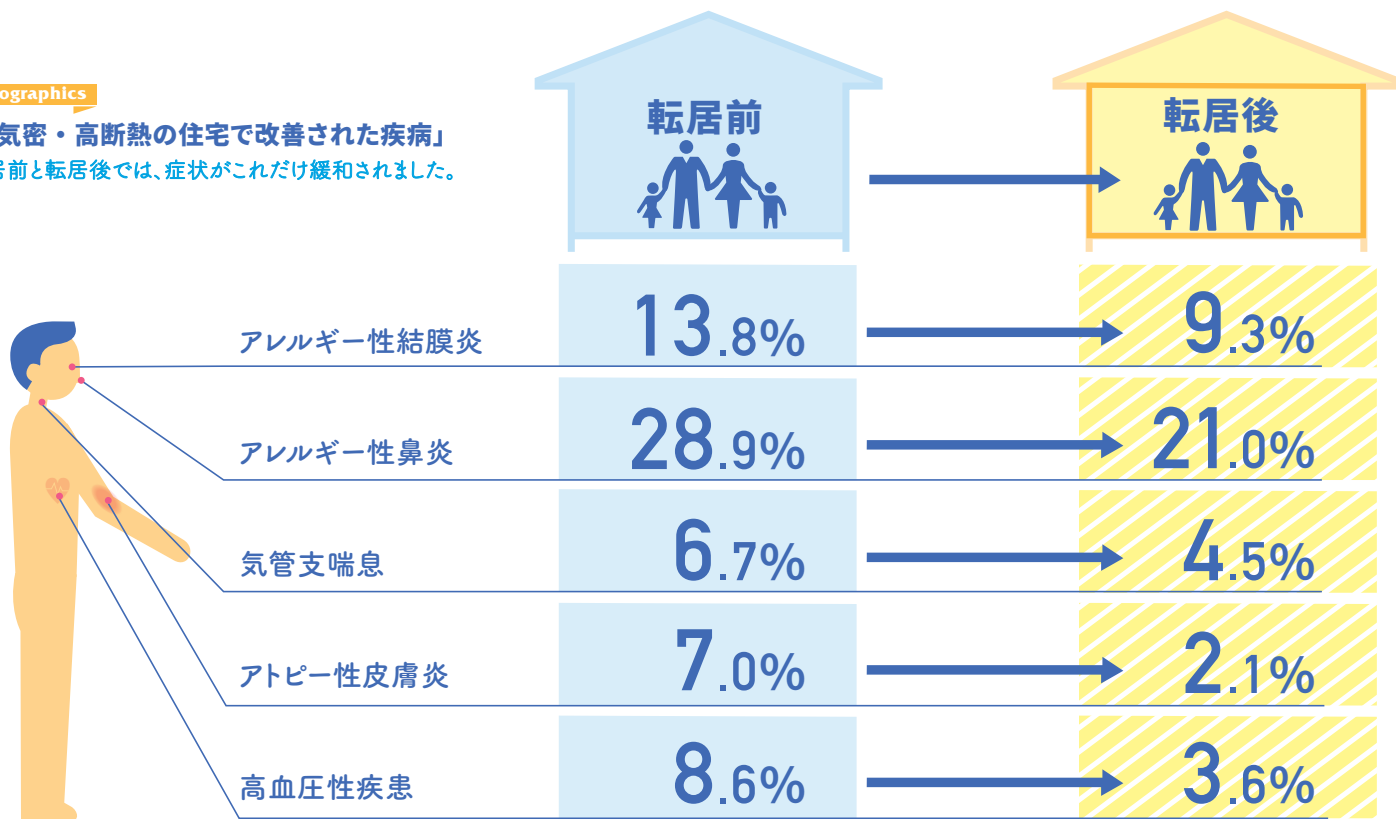
上のグラフは、新築住宅を検討している人たちを対象に「駅からの距離」といくつかの条件を比較したデータです。断熱性・気密性の項目では駅からの距離を上回る結果となりました。駅からやや遠くなっても家の中の快適さを優先させる、という傾向が見えてきたと言えるでしょう。

ページをめくれば、あなたもその理由に「なっとく」できるはず——。

省エネ住宅なら、アレルギーも遠ざけます。

Infographics

「高気密・高断熱の住宅で改善された疾病」
転居前と転居後では、症状がこれだけ緩和されました。



省エネ住宅は、ご家族の健康にも直結。

高気密・高断熱の省エネ住宅は室内外の温度差を小さくできるので、結露を減らしカビやダニの発生を抑制。アレルギー性疾患の原因を減らすことができます。また、暖かな住まいで暮らす幼児は活発になり、病欠が減るという研究結果もあります。子どもが健康でいられれば、看病のため保護者が仕事を休まなくてもよくなります。省エネ住宅は、ご家族の健康をも支えているのです。

※この結果は、24時間の機械換気による室内の空気環境の改善や、新築住宅への転居による心理的な影響などの複合効果と考えられます。

結露は軽く考えず
根本から対策しなければ

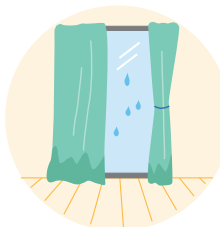


「結露によるトラブルを減らすには」

まずは結露が引き起こす不快感やトラブルを知っておきましょう。

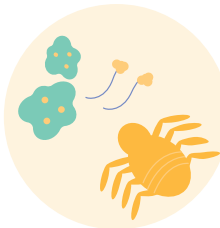
部屋のあちこちが ジメジメ

カーテン、押し入れの中などがジメジメしたり、窓がびしょびしょだったり……。そんな結露の水分は、さまざまな悪影響の元凶です。



放置しておくと カビやダニが

常に湿っぽい状態になるとカビが発生し、胞子を餌にダニが発生します。そのフンや死骸も餌となり、ますます増殖していきます。



健康を損なう 要因にも

カビやダニが大量発生すると空気中に胞子やフンなどが浮遊し(ハウスダスト)、それらを吸い込みアレルギー症状を引き起こす事があります。



ヒートショックから身を守ります。

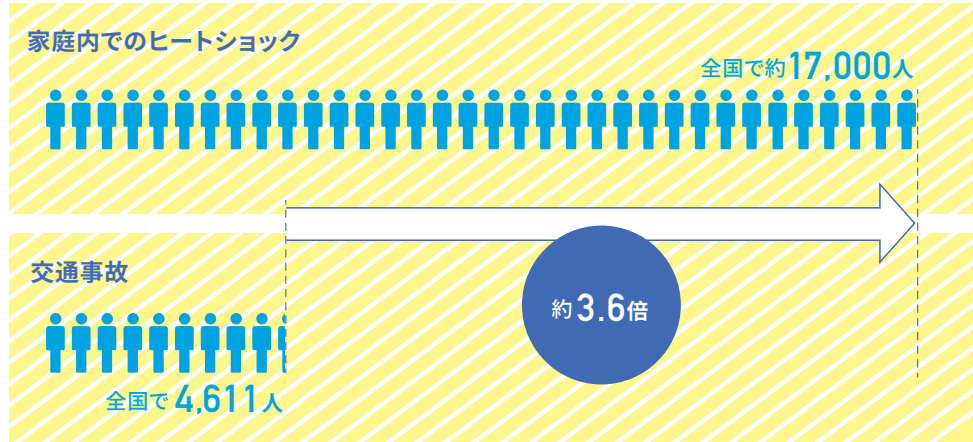
Infographics

「ヒートショックと交通事故による年間死者数比較」

ヒートショックによる死者数は、交通事故を上回っています。

1人 = 500人

2011年の調査



身近に潜む危険から省エネ住宅が守ります。

冬、クローズアップされるのが「ヒートショック」。暖かい部屋から寒い脱衣所や浴室に入ると血圧が急上昇し、心筋梗塞や脳梗塞を引き起こす危険性が高まります。さらに、浴槽のお湯につかると今度は血圧が急降下して失神を起こすおそれもあります。特に高齢者は血圧の変化に注意が必要です。ヒートショックを防ぐには、部屋と脱衣所や浴室との温度差を小さくすることが効果的です。

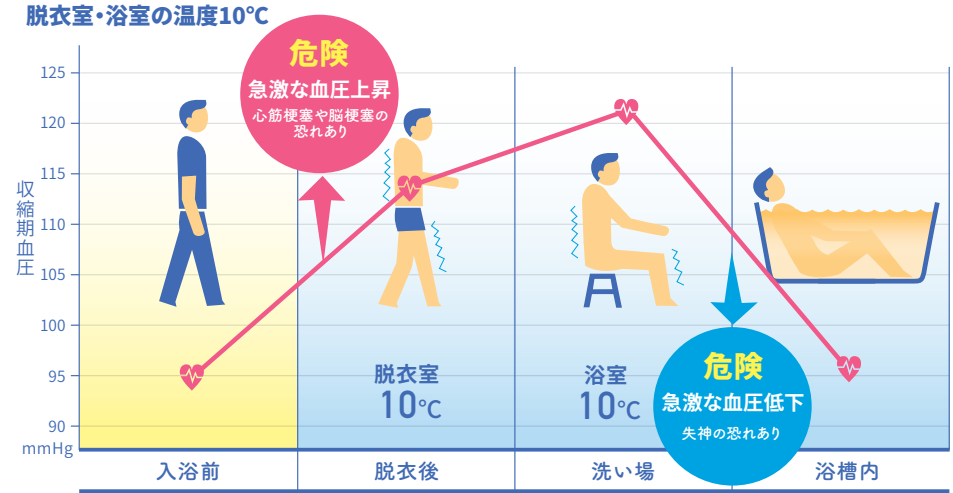
家全体を暖かく保てば
危険が減るんだね!



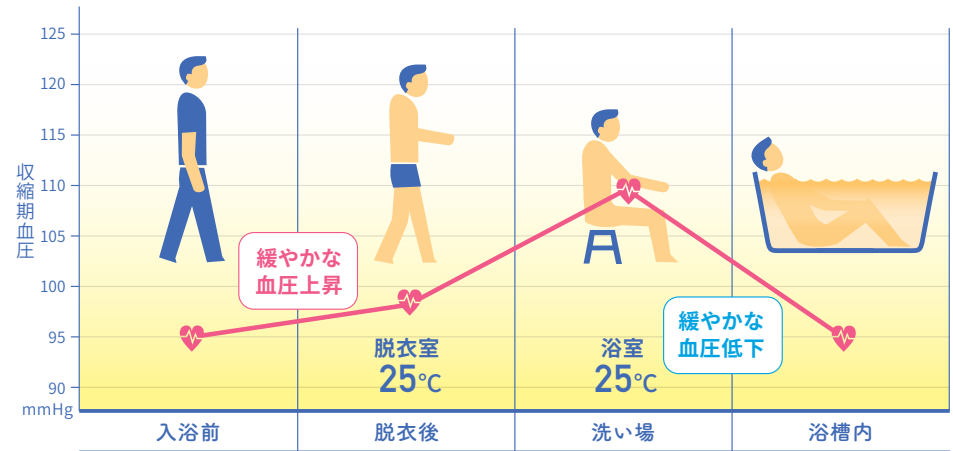
Infographics

「家の中の温度差からくる血圧変動による危険性」

居室と脱衣所・浴室との温度差がヒートショックの危険性を高めます。



脱衣室・浴室の温度25°C

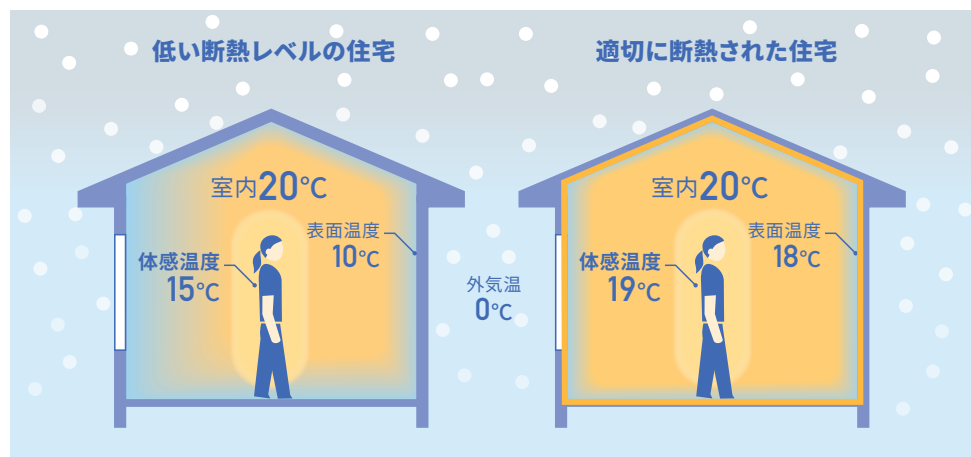


家中が同じ温度なら、あちこちで過ごしやすい。

Infographics

「高断熱な住宅とそうでない住宅の温度比較」

適切に断熱された住宅なら、家のどこにいても快適です。



$$\text{体感温度} = (\text{表面温度} + \text{室温}) \div 2$$

家の中から「行きたくない場所」がなくなります。

冬は窓際や足もとの温度が低くなり、暖房器具が無い廊下などは特に寒くなります。だから冬の脱衣所では服を脱ぐのも億劫になりがち。高断熱の住宅なら、極端に寒い・暑い部屋をなくすことが可能。住宅設計の際も、細かいスペースに区切る必要が無いので、開放的なプランにすることができます。

家の中全体が子どもたちの遊び場になったの！



「音」を気にせずに生活できます。

Infographics

「省エネ住宅と生活騒音」

吸音性のある断熱材は、家から出る音も外の騒音もカットしてくれます。



ご近所に気を遣わないし、家の中も静か。だからストレスも軽減。

家の中の生活音や外からの騒音は、時にはトラブルの原因になります。省エネ住宅にすることで、この問題はかなり解決できるのです。その理由は、壁などに設置した断熱材と、気密性の高い窓。これらが音も遮断・吸収してくれます。スポーツ観戦やホームパーティーなど、あまり音を気にせず楽しむことができプライバシーも守ることができます。

これでお隣さんに気がねなく暮らせますね！



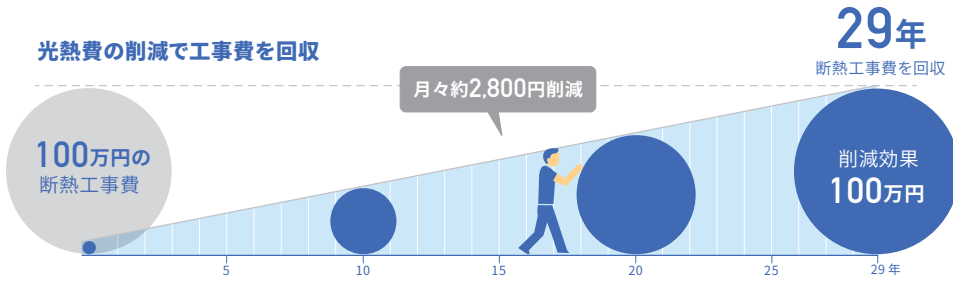
意外に早く回収できる、断熱工事費。

Infographics

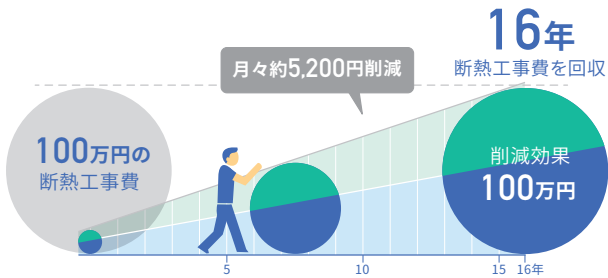
「工事費の早期回収イメージ」

断熱工事費100万円の場合、こんなプロセスで元を取ることができます。

光熱費の削減で工事費を回収



光熱費の削減+健康維持の効果で工事費を回収



健康維持による医療費削減を考えれば、回収期間は16年。

省エネ住宅は、試算によると光熱費を月々約2,800円削減できます。断熱工事に100万円かかったとすると、29年で回収できる計算に。これに、高断熱性能による健康維持効果——医療費や介護費用の削減を加味すると、月々約5,200円となり、16年で回収が可能。初期の断熱工事の費用は、意外に短い期間で回収することができます。

割高に感じた工事費も
医療費のこまで考えると
リーズナブルですね！



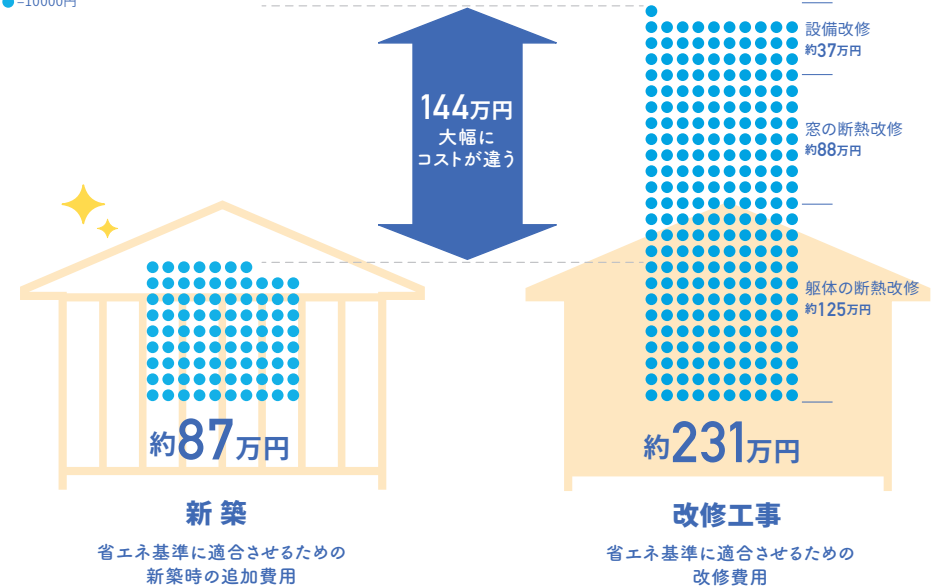
新築するときに断熱工事がだんぜんお得。

Infographics

「省エネ住宅にするための工事費用比較」

新築 vs 改修でどちらがお得？ その答えは明らかですね。

●=10000円



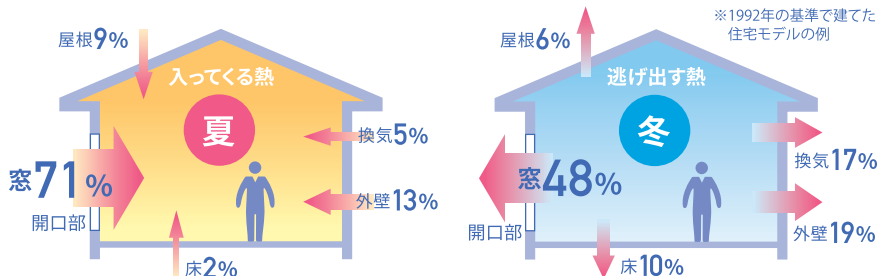
「家全体」のことだから、できれば新築で省エネ住宅を。

省エネ住宅には、気密性の高い窓や断熱材などの設置が必要です。新築時に工事をするのと、あとから改修するのでは、約144万円もの差が生じます。改修時は一時的な転居が必要な場合もありますから、新築時におこなう事が理想的です。また、改修するなら、まずは熱の出入りの大きい窓の取り替えがお勧めです。

後からの工事は大変そう……。
できれば新築でやっておこう



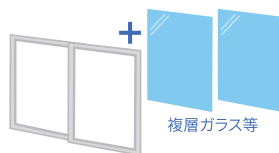
住宅の熱が一番多く出入りするの、窓です。



出典：かながわ健康・省エネ住宅推進協議会

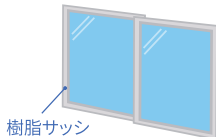
窓の断熱機能をもつ3つの方法

窓ガラスの交換



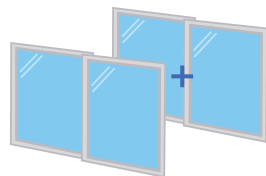
ガラスを断熱性の高い複層ガラス等に交換することで断熱効果を高めます。

樹脂サッシに交換



窓のサッシを熱の伝わり方がアルミの1/1000である樹脂サッシへ交換することで断熱効果を高めます。

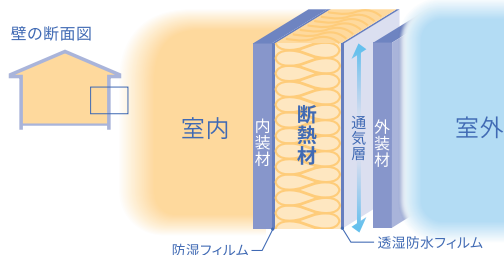
内窓をもう一枚設置



窓の内側にもう一枚窓を取り付け二重にすることで断熱効果を高めます。

出典：かながわ健康・省エネ住宅推進協議会

断熱材も快適な住宅の要素



断熱材も快適な住宅の要素です窓の次に多くの熱が入り出るのは壁。そこに使う断熱材の性能や厚みによって快適性は変わります。屋根、床にも設置し断熱材で建物全体を覆うことで熱の逃げる場所を減らすことが大切です。

詳しく知りたい！
省エネ住宅に関する情報は



まずはここから

動画でも見られます！知って得る情報をご紹介します



横浜市の支援

省エネ住宅に関する制度の紹介



省エネ住宅相談員

専門家が相談にお答えします
《相談無料》



住まいの相談窓口

まちなかの相談窓口を紹介
《相談無料》

